

後期講演会

(講演会紹介)

講演タイトル

「夢の実現—中小企業の^{そら}宙への挑戦」

講演者

^{あおき とよひこ}
青木 豊彦氏

講演者プロフィール

1945年大阪府生まれ。高校卒業後、父が経営する青木鉄工所に入社。1995年に株式会社アオキと変更し、二代目社長に就任した。「モノづくりにはプライドを持たなければいけない」という思いから、新規事業を拡大し、ロボット部品や航空機部品の製造に乗り出し、1997年には世界的航空機メーカーであるボーイング社の認定工場となった。その後、ものづくりの町、東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」の開発に取り組み、2009年に打ち上げに成功した。

日時 11月9日(水)13:00~14:30

会場 1号館3階 132講義室

※講演会掲示・配付資料より抜粋

(講演会感想)

日本は1971年まで1ドル360円で為替が固定されていた。その円安によって戦後の復興を遂げられたと言っても過言ではなく、1960年代の高度経済成長期も円安の恩恵を大きく受けてきた。日本の大企業の輸出競争力は先進国の中でも強くなり、対米輸出の比重も大きくなり日本は経済成長し中小の製造業も発展してきた。

ところが1971年のドルショックにより、為替が変動相場制になり円高に傾きだした。加えて日本からの対米輸出に対する輸入課徴金(税金)が掛けられた。

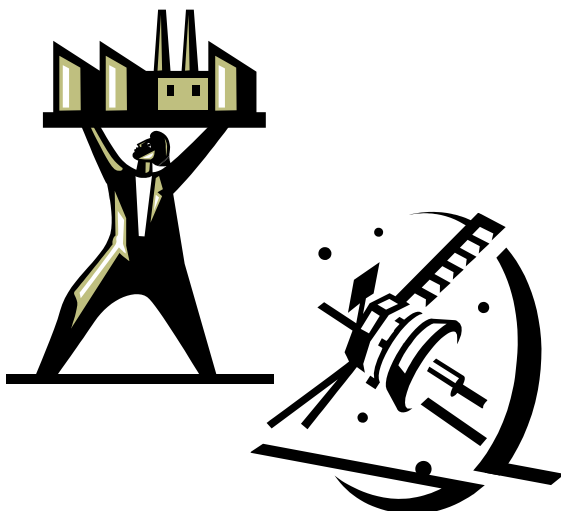
更にオイルショックもコスト増となり、それら全てが大きなダメージを製造業に与え、今日においてもリーマンショック後、更に置かれている状況は厳しくなっている。例えば大手電機メーカー各社は薄型テレビの販売不振で大幅な事業縮小計画を発表している。大企業の下請けが多い中小企業も淘汰が進んできている。倒産や廃業する会社や、生き残りのため親会社とともに海外移転せざるを得ない会社もある。

東大阪においても代表的な金型産業を始め厳しい状況が続いている。

その東大阪で戦後から今日まで事業を続け、米国ボーイング社や日本の大手メーカーの部品を製造している会社の社長が今日の講演者だった。

まずビデオを見た後、青木社長の大きながなり声で「このビデオ気に入ってまんねや」と強烈な大阪弁で講演が始まった。自ら「鉄工所のオヤジ」と言う何とも気さくな人である。とにかく威勢のよい大阪の社長という感じだった。話を聴いていると、信じられる仲間をつくるのがいかに大事か、仕事に誇りを持つことの重要性などを説かれていた。どうもそれらが元気の源のようで、我々が学ぶべき大切なことのようにだ。

(Y・K)



編集後記

一考え続けることが企業にとっても個人にとっても強みになる一

1990年代のバブル崩壊にアジア危機、2000年代の米国のリーマンショックやギリシャに始まるユーロ危機等、景気の悪い話題を挙げればキリがありません。

そうは言っても、景気が良くなれないから利益が上がらないのはしょうがないと諦めてしまえば、ハイそれまでよという話になってしまいます。

たとえ、企業の拠点が大都市にないとしても、労働集約的で人件費の比率が高いとしても、時代の主力産業でなくなってきたとしても、規模が小さいとしても、それを言い訳にして思考停止してしまうのはナンセンスです。

ここで譬え話を一つしましょう。

帆船(あるいはヨット)に乗っている自分の姿を想像して下さい。

出発し始めたころは風向きや水の流れが、目的地に向かっていくために都合が良かったが、途中で、風向きや水の流れが目的地とは違う方向に向かってきたとします。そして、風向きや水の流れに逆らって目的地に向かうのは相当の困難を伴いそうです。この後、どういう行動に出ますか？

①それでも風向きや水の流れに逆らっても、目的地に向かって進もうと努力する。

②そのまま風向きや水の流れに逆らわずに、身を任せる。

風向きや水の流れが目的地にとって都合が良ければ何もしなくても帆を広げて身を任せて良いのかもしれませんが、風向きや水の流れが変わってきたならば、帆を畳み、櫂(オール)を出し、流れに逆らいながらも自力で進んでいく必要があります。

この場合の風向きや水の流れは景気の動向や産業の変化を表します。

資本主義(及び民主主義)社会では、原則、個人に市場や社会を動かす力はありませんから、上述の事象は所与であると考えるのが妥当でしょう。ここで、与えられているものが悪いから利潤が出ないと思える経営者や、能力があるのに、それが時代が求めているモノとは違うから良い企業に入れないと思える就活生は、第2段落で書いた諦観者や、②の選択者です。こうした経営者や就活生の帆船(ヨット)は遅かれ早かれ沈没するでしょう。

そうではなく、自分の頭で考え、そのことを実際に行動に移すことができる①のような企業家や個人が、不況を生き抜いていくでしょう。

要するに、自分で考えずに他者(他社?)任せにすると良い事はなく、自分で考え、それを実行していく事が、こうした厳しい情勢を切り抜く武器となり、強みとなるという訳です。

(H・O)

GAKKAI NEWS 第3号 クイズ(HPのみ掲載)の答え

左上から順に

- ・7号館入り口
- ・図書館・10号館間の中庭の平生鈆三郎像
- ・13号館(西校舎)ラウンジ
- ・14号館(西校舎)横の実験装置
- ・2号館2階ラウンジ
- ・5号館1階カフェパンセ左奥自販機
- ・5号館1階-2階 自販機の隣の階段
- ・2号館7階から南に見える風景
- ・14号館外観
- ・14号館1階、二重螺旋(らせん)モデルを中から
- ・5号館と10号館の間の緑
- ・5号館とトレーニングセンターの間の緑

でした。